

東京病院ニュース

第50号



発行元 独立行政法人 国立病院機構 東京病院
〒204-8585 東京都清瀬市竹丘3-1-1
TEL 042 (491) 2111 FAX 042 (494) 2168
ダイレクト・イン・ダイヤル 042 (491) 4134
ホームページ <http://www.hosp.go.jp/tokyo/>

新年を迎えて

国立病院機構東京病院 院長 大田 健

新年おめでとうございます。今年は未（羊）年、優しく暖かで仲良く群れをなして行動する動物だという印象を持ちます。これは、東京病院での医療においても当てはまることであり、患者さんあるいは職員同士においても優しさと思いやりを持って接し、異なる職種が一体となって理想の医療を体現することにつながっています。新年を迎えて、東京病院ではさらに新たな転帰が訪れます。救急体制ではすでに昨年11月17日から毎週月曜日に東京ルールの運用に参加しました。今年は、4月から地域支援病院として認定されることを目指してきましたが、認定されればさらに充実した内容で、北多摩北部医療圏を中心とする地域医療に貢献できる状況になります。また結核患者に代わって肺癌患者の増加が認められることから最近2年間は肺癌をはじめとする悪性腫瘍の診療に力を注いできましたが、今年中にさらに整備を進めて平成28年度で東京都がん診療連携協力病院（部位別）の認定を目指しています。診療体制としては、呼吸器センター、喘息・アレルギーセンター、消化器センター、総合診療センター、放射線診療センターの5つのセンターで各診療科をまとめ、各診療科の一層の充実を図って参ります。さらに昨年開設した総合ドックの運用もさらに進めて行き、呼吸器ドックと消化器ドックとともに利用者のニーズに応えたいと考えております。このような方針で診療体制の充実も止まることなく進めながら、地域医療への貢献度を増し地域の健康度の増進にも貢献できる体制を整備して参ります。そして、地域医療連携推進委員会および交流会をさらに発展させ、顔の見える関係で連携医の先生方と地域医療を支える中核病院として機能できる体制の充実を図って参ります。

これまでの歴史を大切にしながら呼吸器、消化器、循環器、アレルギー、泌尿器、神経、視覚、聴覚、運動器などの領域を充実させ、北多摩北部医療圏はもとより我が国の医療の充実に貢献できる施策を順次適切に実行する所存です。「自分や自分の家族がかかりたい病院」を念頭に、患者さんにとって快適で充実した医療を受けられる病院、職員全員にとって忙しくても気持ちよく楽しく仕事のできる環境を作り上げ、さらに東京病院が発展するように、全力で職責を果たす所存です。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



第11回東京病院連携交流会を開催致しました。

地域医療連携部長 廣瀬 敬

平成 26 年 11 月 11 日（火）19 時 30 分～第 11 回東京病院連携交流会を開催致しました。お忙しい中、80 余名の多数の先生方、医療スタッフの皆様方にご参加いただき誠に有難うございました。

当院の大田院長の開会の挨拶ではじまり、庄司副院長の座長のもと、「出血をきたす疾患」をテーマとして、「吐血・下血」について元吉病棟診療部長（消化器外科）より、「血痰・喀血」について益田地域医療連携室長（呼吸器内科）より講演致しました。診療の ABC から最先端のトピックスまで充実した講演であったと感じました。先生方の日常診療にお役立ていただければ幸いです。診療科紹介は、リハビリテーション科、消化器内科の 2 科と結核診療の紹介をさせていただきました。最後に開催に際し御尽力いただいた平野清瀬市医師会長の閉会の挨拶で盛会裡に閉会しました。

昨年 12 月より、地域の医療機関とのより密接な連携をとるために、北多摩北部 2 次医療圏の清瀬市、東久留米市、小平市、西東京市、東村山市、および所沢市、朝霞地区の各医師会にご協力いただき、連携交流会の前に東京病院医療連携推進委員会を開催し、今回で第 3 回を数えました。お忙しい中、各医師会長の先生、医師会よりご推薦頂いた先生方にご参加いただき誠に有難うございました。

講演会終了後は、当院食堂に場所を移して懇親会を開催し、多数の方々にご参加いただき、楽しく意見交換をしました。当院スタッフも地域の先生方、医療スタッフの皆様方と意見交換ができることを大変喜んでおります。重ねて感謝申し上げます。なお、東京病院医療連携推進委員会、懇親会では、様々なご意見、ご指摘をいただきました。ご指摘いただいた点に関しましては、真摯に受けとめ改善してまいります。

次回の第 12 回東京病院連携交流会は、平成 27 年 6 月 9 日（火）に開催を予定しており、「神経疾患の診療」と「肺がんの診断・治療」の講演を予定しております。今回不手際な点もあったかと存じますが、より良い連携交流会となるようスタッフ一同努力して参りますので、次回も多数の方々にご参加いただければ幸いです。



【↑ 大田院長の開会挨拶】



【↑ 元吉病棟診療部長の講演】

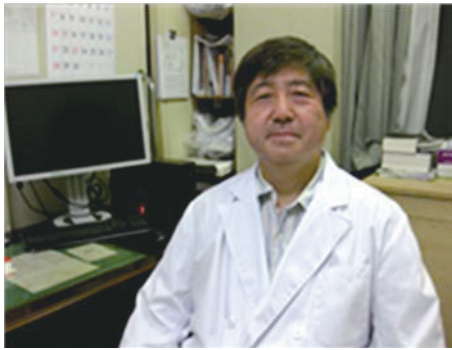


【↑ 益田地域医療連携室長の講演】



【↑ 懇親会の様子】

連携医の方を紹介します



山本病院
院長 山本雅宏先生

標榜科 内科 外科 整形外科 小児科 皮膚科 泌尿器科

院長からの一言：

内科小児科医院として開業以来、長年にわたり、地域に密着した病院として、地域の皆様にお役に立ってまいりました。内科、小児科、整形外科等の診療科目を中心に地域のかかりつけ医として診療に励んでまいりました。

社会の高齢化が進む中、他病院や診療所、施設などとも密接に連携を図りながら、高齢者の方々が安心して療養に専念できるやすらぎのある病院を目指して参りたいと思っております。

診療受付時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 8:00~12:00	○	○	○	○	○	○	×
午後 14:00~16:30	○	○	○	○	○	×	×

《休診日》土曜午後、日曜祝日

ホームページ：<http://www.yamamoto-hp.jp/>

所在地：〒204-0004 東京都清瀬市野塩1-328

連絡先：TEL 042-491-0706

FAX 042-491-8679



当院 Expert 医の紹介

総合診療センター部長・循環器内科医長 青木 和浩

東京病院において循環器内科はその専門医として、循環器疾患を担当しております。今回、専門医として行っていることを大きく二つに分けてご紹介させていただきます。一つは一般的な循環器内科で行っていること、もう一つは東京病院のその歴史的経緯から、一般の循環器内科では症例が多くなく、東京病院循環器内科で特徴的なことをご紹介させていただきます。

一般的な循環器内科で行っていること

虚血性心疾患患者に対して、心臓超音波検査、心臓冠動脈造影CT検査、心臓核医学検査を行い、必要な方に、心臓カテーテル検査を推奨いたしております。その結果、経皮的冠動脈形成術を施行しております。

閉塞性動脈硬化症患者に対して、血管エコー、下肢血管造影CTを行い、必要な方にカテーテル検査、その結果により、経皮的血管形成術を行っております。

弁膜症疾患については、心不全管理後、経胸壁心エコー、経食道心エコー、心臓カテーテル検査による弁膜症の病状を評価し適切な時期における心臓血管外科へのご紹介をいたしております。

徐脈性不整脈疾患に対しては適応をガイドラインに従い判定してペースメーカー植込み手術を施行しております。

東京病院循環器内科で特徴的なこと

昭和初期の前身の清瀬病院・東京療養所時代から引き続き、呼吸器疾患を中心とした政策医療分野の基幹施設としての役割を果たしてきた経緯から肺高血圧症・サルコイドーシス症の方が数多く診療のため受診されております。また、肺高血圧症については、近年有効な新薬が次々に開発されており、治療成績が改善し、治療法が新しくなりつつあります。呼吸器疾患に関連した循環器疾患において、呼吸器内科専門担当先生方とともに協力して診療を行い、この地域の医療に少しでも貢献できるよう努めます。

結核について (3)

呼吸器内科医長 山根 章

前回は、当院での結核治療の現況についてお話ししました。

要約すると、

- ①東京病院の結核病棟は現在100床で全国最大規模の病床数です。入院棟7階の東西2病棟が結核病棟となっています。
- ②結核病棟には結核以外の患者さんも入院しています。なぜならば結核が強く疑われたため入院したけれど、結果的には結核以外の病気であることが判明した患者さんがいらっしゃるからです。一般の病院では結核疑いの患者さんを受け入れるのが難しいのが現状ですので、このような方の受け入れも当院の大切な仕事であると考えています。
- ③日本全体もしくは東京都全体でも結核患者数は減少してきていますが、当院の結核入院患者数は決して減ってはいません。結核病床数が減少し続けているため、東京病院などの残った結核病床を有する病院に結核患者さんが集まってきているためであると思われます。

ということでした。

今回は、引き続き東京病院での結核治療の現況についてお話ししたいと思います。

昨年度に結核病棟へ入院された結核患者さんは423人でしたが、そのうち再入院の方を除いた、新たに結核と診断された患者さんは407人でした。そのうち肺結核は369人、肺以外の臓器の結核患者さんは38人でした。

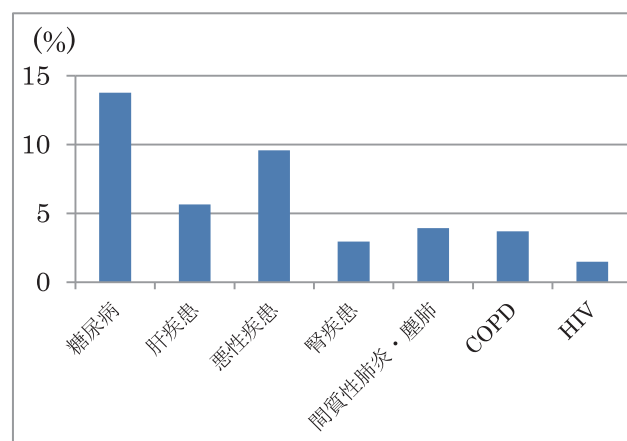
結核の中で最も多いのは肺結核ですが、肺以外の臓器において結核菌が病巣を作ることもあります。肺以外の結核で最も多いのは胸膜炎（いわゆる肋膜炎）です。胸に水がたまる病気として知られています。そのほかにもリンパ節などの結核も割合多くみられます。治療方法は肺結核でもそのほかの部位の結核でもほとんど変わりはありません。抗結核薬の内服によって、ほとんどの結核は治癒します。

また、平成25年度の新入院結核患者さんの年齢構成をみますと、80歳代にピークがあります。前々回にお話ししましたように、日本全体でみると、結核患者数は減っているにもかかわらず、80代以上の高齢者結核は減少していません。従って、結核患者さん全体に占める高齢者の比率は上昇しています。当院も全国的な傾向と同様に高齢の結核患者さんが多く入院されています。

高齢者には結核以外の合併症をお持ちの方が多くみられます。そのため、入院患者さんの中にも合併症がある方も多くなっています。合併症の中で特に頻度が高いのが、糖尿病と悪性疾患です（図をご覧ください）。そのほかにも肝臓病・腎臓病など様々な合併症がみられています。当院には多くの専門分野の医師・医療スタッフがいますので、連携してこれらの合併症の治療にあたっています。

今回はこれでおしまいです。次回も引き続き当院の結核治療の現況に関するお話をいたします。

東京病院における結核入院患者の合併症頻度
(2013年度)



ご存知ですか？「濃厚流動食品」

栄養管理室 主任栄養士 富井 三恵

疾病のある人（特にかんや胃腸疾患などの治療・手術後、呼吸器系の病気や在宅酸素療法中）や、食が細くなった方、偏食のある方などは、必要な栄養を充分摂れていない場合があります。

その場合、エネルギーやタンパク質などの身体に必要な栄養が不足した「低栄養」が心配になります。

血液検査では血清アルブミン（Alb）値等が重要な判断材料になりますが、血液検査を必要としないスクリーニング法として、65歳以上の高齢者の栄養状態を評価する医療・介護従事者向けのツール、簡易栄養状態評価表MNA®（Mini Nutritional Assessment）があります。今回はMNA®を簡便化したMNA®-short form（MNA® - SF）を紹介します。

MNA®-short form（MNA® - SF）～抜粋・改編～

※以下の項目の各基準に当てはまる数値を加算してスクリーニング値を算出します。点数が低い場合「低栄養」と判定されます。

詳しくは <http://www.nestlehealthscience.jp/mna/mna/mna-sf.pdf> よりPDFのダウンロード可能です。

- 過去 3 ヶ月間で食欲不振、消化器系の問題、そしゃく・嚥下困難などで食事量が減少しましたか？
 - 過去 3 ヶ月間で体重の減少がありましたか？
 - 自力で歩けますか？
 - 過去 3 ヶ月間で精神的ストレスや急性疾患を経験しましたか？
 - 認知症やうつ状態などの神経・精神的問題はありますか？
 - BMI (kg/m²)【体重(kg)÷身長(m)²】の値はどうか？
- BMI が測定できない方は、ふくらはぎの周囲長(cm)が31cm未満か以上どちらですか？

出典：ネスレヘルスサイエンスカンパニー

低栄養の方、食事の量が充分摂れていない方への栄養補給のために、エネルギーやタンパク質、ビタミン、ミネラルなどの栄養をバランスよく摂ることに役立つ「濃厚流動食品」と呼ばれるものがあります。

少量高カロリーでバランスが良いためご飯やおかずの代わりに、また、量が少ないため食事の間食や補食として、効率良く栄養を摂ることができます。多数のメーカーより多様な味と種類が出ています。

詳しくは、医師、管理栄養士にお尋ねください。

濃厚流動食品

医師の処方必要

保険適応

医薬品

ドリンクタイプ

(例：エンシュア®、ラコール®、エネーホ®等)

医師の処方必要無し

保険適応外

食品

ゼリータイプ

(例：アイソカルゼリー®、カロリーメイトゼリー®、エンジョイゼリー®、等)

ドリンクタイプ

(例：メイバランスミニ®、ファインケア®、テルミールミニ®、リカバリーミニ®等)

「救急医療の東京ルール」の当番医として参加することになりました

統括診療部長 小林 信之

東京病院は、平成26年11月14日、東京都知事より「東京都地域救急医療センター」として指定され、「救急医療の東京ルール」（いわゆる「東京ルール」）に参画することになりました。

東京ルールは、地域救急医療センターに指定されている二次医療圏内のいくつかの病院が救急当番を担当するシステムであり、当院は毎週月曜日が当番日となります。東京ルールは、救急隊が受入れを要請した際、5か所の医療機関に断られた場合か、連絡開始から20分以上経過した場合に適応されます。救急隊の搬送先が決定しない傷病者を、当番病院が受入れることにより、搬送先決定までの時間を短縮させ、傷病者の予後を改善させようというものです。

東京病院では、東京ルールに参画することにより、地域医療の推進により多くの貢献をしようと考えております。



にぎわいました、クリスマスコンサート



12月17日(水) 15時から約1時間、当院でも恒例となりました『クリスマスコンサート』を1階外来ホールにて開催いたしました。今年で3回目を迎える今回は、「国立音楽大学」の音大生9名をお招きし、素晴らしい歌声と演奏で多くの患者さんにひと足早いクリスマス気分になっていただきました。

アンコールも含めて5曲の合唱と2曲の独唱に加え、トーンチャイムという珍しい楽器による美しいハーモニーも2曲ご披露いただきました。

中でも、患者さんにもご参加いただく音大生の皆さまオリジナルのイントロクイズをコンサートの中盤に沢山ご用意いただき、大西さんの明るく楽しいトークもあって患者さんも積極的にクイズにお答えいただき、会場は大いに盛り上がりました。

来年度も開催させていただく予定ですので、是非また良い企画をご用意して、沢山の皆様にご参加いただければと職員一同考えております。

国立音楽大学の皆さま、ありがとうございました。



【国立音楽大学 大西さん】

清瀬ホスピス緩和ケア週間イベントご報告

緩和ケア科医長 三上 明彦

国際NGO(非政府組織)であるWHPCA(世界ホスピス緩和ケア連合)が、ホスピス緩和ケアの普及・支援のために毎年10月第2土曜日を世界ホスピス緩和ケアデーに制定しています。日本では日本ホスピス緩和ケア協会がこの日を最終日とした1週間を「ホスピス緩和ケア週間」として緩和ケアの啓発・普及活動に取り組んでいます。

これに対して清瀬市ではホスピス緩和ケア関連の医療施設が充実しているものの、さらに「緩和ケア」についてよく知っていただくため、今年度は信愛病院・救世軍清瀬病院・当院の緩和ケア病棟と信愛訪問看護ステーション、複十字病院緩和ケアチームの共催でイベントを開催しました。

①パネル展示「ホスピス緩和ケアってなあに？」

2014年8月12日～10月19日の間、各病院とクレアギャラリー(清瀬駅北口)におきまして順番にパネル展示を行いました。オレンジ色の風船にお気付きの方もおられたと思いますが、これは緩和ケアの正しい知識を広めたいと考えている日本緩和医療学会の「オレンジバルーンプロジェクト」のシンボルです。



②講演会&コンサート&緩和ケア紹介

2014年10月18日(土)10:00～12:00 当院で開催しました。

講演「ホスピス緩和ケアってなあに？」

信愛病院 緩和ケア部長 高世秀仁

祈りのコンサート

音楽療法士(信愛病院、救世軍病院)

施設紹介

緩和ケア病棟(3院)

緩和ケアチーム(複十字病院)

訪問看護ステーション(信愛病院)

在宅ホスピス(中島医院)



③ホスピス緩和ケア病棟 見学ツアー

2014年10月18日(土)13:00～15:30

3院の緩和ケア病棟を順にバスで巡回する見学ツアーを行いました(参加者56名)。

多数のご質問ご意見をいただきました。ありがとうございました。



私どもが緩和ケアというかたちで提供しております医療が、どうぞ皆様が幸せに過ごしていただくことにお役に立ちますように努力してまいります。

<緩和ケア病棟入院相談外来 毎週木・金 8:30～14:00>

診療情報提供書(紹介状)をお持ちください。

当院の災害への取り組み

災害ワーキンググループ長／呼吸器内科 川島 正裕

日本列島において、東北地方太平洋沖地震のような海溝型大地震や約 2000 本存在する活断層が原因で起こる内陸型大地震はいつ起こっても不思議ではない状況です。内閣府の防災白書では、30 年以内に 70 %の確率でマグニチュード7クラスの首都直下型地震が発生すると予測しています。

東京都災害拠点病院である当院には、災害時に医療資源が制約される状況において適正に傷病者を救護する能力が求められています。職員の災害に対する意識向上および災害時の医療体制に関する認識の共有を目的に、当院では南関東直下型地震を想定した災害訓練を 2014 年 11 月 18 日に実施しました。災害訓練前に職員の災害医療に対する理解を深める目的で、トリアージ（傷病者の緊急性や重症度を判定して治療や搬送の優先順位を決めること）や災害訓練に関する院内研修会を行いました。当日の訓練には 250 名の職員が参加しました。各々の職員は、既設部門の被害状況報告（写真1）、災害時の職員の安否確認も兼ねた職員登録、傷病者受入のための新設部門開設、傷病者（模擬患者）に対するトリアージ・初期治療・病棟あるいは他院への搬送などの一連の行動を院内放送および災害マニュアルに準拠したアクションカードで確認しつつ行いました。災害訓練後の参加した職員へのアンケートでは、多彩なシナリオでより多くの模擬患者で傷病者対応の訓練が必要である、行政などの外部との連携を含めた訓練も行うべき等の多数の真摯な意見が提案されました。

今後、訓練から得られた意見や過去の震災の教訓を参考に更に実用的な災害時初期対応計画に改定し災害時の準備を整え、その実力を訓練にて再確認するというフィードバック回路の形成が必要です。病院全体の問題として災害に立ち向かうという全職員の強い決意と協力が不可欠な時代にまさに突入しているのです。

一方、大規模広域災害時には救急隊・消防などのいわゆる公助には限界があり、住民自身による自助ならびに共助の行動いわゆる「ソフトパワー」が重要視されています。阪神・淡路大震災では地震により倒壊した建物から救出され生き延びることができた人の約 7 割以上が、家族や近隣住民によって救出されたと報告されています。ソフトパワーと行政ならびに災害拠点病院を中心とした医療機関の連携体制の構築が、今後の重要な課題の一つと言えます。本年 9 月 1 日に清瀬市と当院の間で「災害時における緊急医療救護所の提供に関する協定」が締結され、その歩みは確実に踏み出されています。



写真1

診療内容 病床数560床

- 呼吸器センター ○喘息・アレルギーセンター ○消化器センター ○総合診療センター ○放射線診療センター
- 呼吸器内科 ●アレルギー科 ●消化器内科 ●総合内科 ●整形外科
 - 呼吸器外科 ●眼科 ●消化器外科 ●循環器内科 ●リハビリテーション科
 - リハビリテーション科 ●耳鼻咽喉科 ●リハビリテーション科 ●神経内科 ●泌尿器科
 - 放射線科 ●皮膚科(入院のみ) ●放射線科 ●麻酔科 ●放射線科
 - 緩和ケア内科 ●緩和ケア内科 ●臨床検査科 ●歯科(入院のみ)

「肺ドック」・「消化器ドック」とともに「総合人間ドック」を開始しました。

<実施期間>「総合人間ドック」：平日の月・木・金曜日のみ（金曜日の人間ドックはペプシノゲン検査選択の方のみ可能）

「肺ドック」「消化器ドック」：平日の月～金曜日

<受診を希望される方は>

完全予約制となっておりますので、ご希望の方は下記の予約センターまでお問い合わせください。

【予約センター：TEL 042-491-2181 受付時間：平日 9:00～15:30】

受付時間：初診 8:30～14:00（消化器内科の月、金は12:00までの受付） 予約センター 042-491-2181
再診 8:00～11:00（受付時間平日8:30～15:00まで）

専門外来案内

専門外来名		診察日	このようなことでお悩みの方は、ご相談ください
	禁煙（予約制）	火(午前)	タバコがどうしてもやめられない方。 (当院の禁煙外来は、平成20年1月より保険が適用となりました。)
呼吸器関係外来	肺がんセカンドオピニオン(予約制)	木(午後)	肺がん治療についてのセカンドオピニオンを希望される方。 [1時間まで10,800円]
	喀血（予約制）	火(午後2時～)	咳をともなう気道・肺から出血する状態を喀血といいます。肺アスペルギルス症、気管支拡張症、非結核抗酸菌症、肺結核、肺癌の患者さんにおこります。ご相談ください。
	間質性肺炎	水(午前)	この病気は「息切れ」と「から咳」がよくある症状です。 治療が難しく、膠原病に合併する場合があります。
	非結核性抗酸菌症	水(午前)	咳や痰が出て、血痰があるなど一見結核にみえますが違います。 結核とそっくりの症状がこの疾病です。他人への感染はありません。
	いびき COPD (睡眠時無呼吸症候群の検査)	月～金(午前)	ご家族などから「いびきが大きい、長く続く」あるいは「ねている時に息が止まる」などと言われた方。COPDを疑われたり、COPD呼吸リハビリを御希望の方。
	難治性喘息外来(予約制)	月(午後) 2時～4時	通常の喘息治療でうまく喘息がコントロールされていない難治性喘息の方。
ものわすれ外来	水(午後)	最近ものわすれのひどい方、アルツハイマー病などが心配な方。 (あらかじめ神経内科を受診して下さい。)	
高次脳機能外来	木(午後)	失語・失行や健忘などの診断、リハビリテーションへの紹介など（要神経内科外来受診）。	
肝胆脾	金(午後)	肝臓癌、胆嚢癌、胆管癌、膵臓癌や胆石症など、肝胆脾疾患の手術のご相談、お申し込み、セカンドオピニオン等に、専門の医師が対応いたします。	
地域リハビリ相談	木(午前)	連携医の先生方からかかりつけの患者様で、運動・言語・嚥下機能に問題があり、リハビリテーションをご希望の方。(かかりつけ医の情報提供書が必要です。)	
白内障外来	木(午後) 13:30～15:30	白内障の診断、手術の相談、説明など、これから白内障手術を検討されている方の各種相談などを行っています。	

医療連携室よりお知らせ 患者様をご紹介いただく場合（医療機関）

外来診療の予約：診療依頼書をFAX送信して下さい
CT・MRI検査の申し込み：医療連携室へお電話下さい

医療連携室

FAX 042-491-2125 (8:30～15:30)
TEL 042-491-2934 (8:30～17:15)

交通

- 西武池袋線 清瀬駅南口よりタクシー5分、または南口バス2番乗り場より久米川駅行・所沢駅東口行は東京病院北下車、下里団地行・滝山営業所行・花小金井駅行は東京病院玄関前下車。(早朝夜間など東京病院玄関前を経由しない場合があります。)
- JR武蔵野線 新秋津駅よりタクシー10分、または西武池袋線に乗り換え。
- 西武新宿線 久米川駅北口より清瀬駅南口行で東京病院北下車。または花小金井駅北口より清瀬駅南口行きで東京病院玄関前下車。(早朝夜間など東京病院玄関前を経由しない場合があります。)
- JR中央線 武蔵小金井駅より清瀬駅南口行のバス路線があります。
- 東武東上線 志木駅南口より清瀬駅北口行のバス路線があります。
- お車でお越しの際は正面よりお入り下さい。

(駐車場265台)

30分以内 無料

31分～4時間 100円

以後1時間毎 100円

(20時15分～7時 1時間毎300円)

WEB検索

東京病院

検索

